

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時:令和4年5月 25 日(水) 13:30~16:15

場所:福岡市役所本庁舎 15 階 1501 会議室

出席者:評価委員 3名【久留副会長、依田委員、福岡委員】

発表団体5団体(入れ替え制)

事務局4名

<申請事業の評価>

団体活動支援コース A の申請団体による事業計画のプレゼンテーション

(プレゼンテーション:10 分 質疑応答:8 分)

【1 愛宕の森と緑を守る会】

- 委員 会員は何人で、会員以外の市民はどのくらい参加しているのか。
- 回答 会員数は 91 名。参加者の数は集計していないが、月 2 回の作業活動に会員以外で参加されている方が2名いる。
- 委員 チラシや活動の成果などの印刷物は、一般の市民にどういった形で配布しているのか。
- 回答 愛宕山の神社や神社の待合室等に置いている。その他緑のまちづくり協会の郵送物に同封するなど、パンフレットは 3500 部印刷して 1 年で全て捌けている。
- 委員 広報周知という観点からお尋ねしたい。愛宕の森は四季折々の表情や、活動7年目ということでこれまでの活動で得た写真などを経年比較することができると思うが、Youtube や Twitter、ホームページなど写真を活用した広報は行われているか。また今後の展開はあるか。
- 回答 ホームページと本年 4 月に開設した Twitter に掲載しているが、活用は今後の課題である。緑のまちづくり協会のグリーンノートを通じた情報発信も行っている。Youtube なども出来ればやりたいが、会員の年齢層も高いので担当する人材も不足し、なかなか難しい。フィールドの看板と QR コードでウェブサイトや twitter と連結させることも始めている。
- 委員 今年の計画は非常に充実しているように感じる。大変な作業を地道に確実にやられていることを評価したい。参道の整備や動植物の保全もされており、活動も幅広い。今年度の事業に組織づくりとあるが、地道な活動が続けるには組織体制は重要である。特に市の補助を得て実施する活動であるので、一般市民への呼びかけがより活発になると良いと思うが、地域住民や公民館などに情報を伝えるなど、1 日だけでも参加する新しい方を少しでも増やすことについてはどうか。また、最近はチラシ等の紙媒体では広報効果が乏しい。Instagram などの報効果が高い印象はあるが、こちらの活用予定は。
- 回答 Instagram は開設していないが、近隣の公民館には定期的にチラシ等を置いている。新しいものへの取り組みはなかなか難しい。
- 委員 既存の会というイメージが強いと思われるので、新しい参加者がより増える広報が必要だと感じる。
- 委員 どの団体も高齢化が課題と思う。地域の学校の生徒へ呼びかけ、そこから口コミで広げるなどはどうか。
- 回答 団体としてはこれまで手が足りなくて活動に支障があったことがあまりなく、むしろ、新聞で広報した際には人が集まりすぎて対応が難しかった経験がある。また愛宕山は傾斜地が多く、はじめての方が多いと危険性が高まるという側面もある。月2回の作業は毎回 10 人~15 人程度でやっているが、口コミで集まった新しい方も参加している。
- 委員 大学生など環境活動をしている若い人が参加されて、参加者の層が広がると良いと思うがどの

ように考えているか。

- 回答 そういった若い方とのルートを持てると良いとは考えている。また、桜は非常に手がかかるので、今年の4月の総会で、地域の他の団体と一つの組織を作ろうと動き始めている。活動7年目にあたり、大きく組織が変わる時期に差し掛かっているところである。市民の活動の中心になれるよう進めていきたい。

【2 博多湾わかめプロジェクト実行委員会】

- 委員 実行委員会の方のメンバーの人数と、昨年の市民の参加者数は何人か。
- 回答 役員と実行委員会とサポーターと参加者の構成になっている。役員と実行委員会は20名程度で、サポーターは30名から40名程度。参加者は、昨年は100～120名程度。参加者希望者が募集人数の80名を大きく超えた。
- 委員 今年も同じくらいの規模か。
- 回答 80名で予定しているが、増えることが想定される。
- 委員 身近な食材である、わかめを育てて食べる体験型学習は、楽しく学習できる事業だと感じた。環境保全の観点からお尋ねする。わかめの生育が海中の二酸化炭素の吸収やブルーカーボンの効果につながるとされているが、取組み後の具体的な効果があればお尋ねしたい。
- 回答 わかめの生育により二酸化炭素の吸収が行われる点は間違いはないが、数値として取ることは難しい。定性的な話にはなるが、わかめの収穫時に藻類や小さな生物がたくさん付着しており、生物の育成の場になっているということは言えるため、数値で表すのは難しいが、環境に良いということは示せる。
- 委員 昨年度の報告会のときに出た委員の意見を踏まえた計画になっていると評価している。中間調査の実施など博多湾の環境を調査する点もしっかり表現されているように感じた。また、参加者のアンケート収集も非常に重要だと思う。参加の前後で意識や関心に変化が出るということは活動の成果といえる。最近はスマートフォンで情報収集される方が多いと思うが、ホームページはスマホでの閲覧を意識して作成されているか。
- 回答 見え方が異なる点は認識し、配慮している。
- 委員 Instagramなどは写真の投稿だけで広報可能なツールだが活用状況としてはどうか。
- 回答 SNSとしてはFacebookを立ち上げているが、Instagramなどの利用は今後参考にしたい。補足としては、ホームページで参加申込できるようにしており、チラシなどに掲載したQRコードをスマホにかざすことで申し込みできるようにしている。また参加者にEメールを登録してもらうことで中止などの情報がすぐに展開できるようにしている。

【3 水と緑の楽校】

- 委員 参加した前後での子どもの意識の変化はあるか。
- 回答 イベントの中で身近な植物の名前や外来種、在来種などの説明を行うが、継続的に参加している子どもはそういった草花に詳しくなるなどの変化が感じられる。また、ゴミ拾いのあとはその分類を行っているが、子どもたちが遊びながら自発的にごみを集めて分類する姿が見られるなど、楽しみながら環境改善に臨む姿勢が見られる。
- 委員 将来的にそういった体験を重ねた子どもたちがリーダー的な存在になっていくと良い。
- 回答 中学校に上がると部活などの学校生活が忙しくなり、繋がりが薄くなっていく点は少し課題に感じている。
- 委員 事業成果の市民への還元という面でお尋ねする。河川清掃や草刈等は他の自治会や町内会などでも課題を持っていると思う。事業の中で河川清掃等を通じて得たデータを蓄積し、他の地域でも使えるような情報提供や実施のヒントなど横の展開の可能性があると感じたが、そういった方向性はあるか。

- 回答 昨年は環境づくりが地域住民の行動にどのような変化が起きるかという点を調査した。草刈りを行った場合とそうでない場合で、地域住民の利用頻度の変化をみたところ、当然のことではあるが、草刈りした場合は利用頻度が高くなり、そうでない場合は低くなるというデータの裏付けが取れた。そういったデータを様々な人に提供しながら新たな活動に繋げていきたいと思う。
- 委員 活動はいつから始められたのか。
- 回答 活動を開始してから 6 年ほど経った。
- 委員 長く活動されている中でもう少し地域の拡がりや繋がり、地域を良くしていくなどの成果が見られればと思うがいかがか。
- 回答 地域との連携は今直面している問題だと感じている。最近課題に感じたものとして、私たちが草刈りをする場合は、在来種のヨシ群落や日陰となる木々を残すなどの対応を行っているが、地域の自治会が年に 1 回程度、河川の管理者に依頼して行う草刈りではすべてが刈りとられてしまう。地域の自治会と管理者と自治会とは別の地域の団体、それぞれの思いや立場はわかるが、そこをうまく調整できず、課題に感じている。団体が草を刈り、地域住民が利用でき、また河川の管理の経費も安くなるというスキームを考えていたが、調整がうまく機能していないことで各々がお金と労力をかけており、無駄が生じている。そこは何とかしていきたいと考えている。
- 委員 素人目線ではどの草を残すべきかといった判断がつかない。そこを調整する話し合いの場や一緒に活動するなどの取組みにつながっていくと良い。
- 回答 数日前に県の担当者に草刈りの際に残しておくべき植物について相談に行ったところ、地域の一人ひとりからの要望に個別の対応はできないという回答だった。行政という立場で平等に対応するためという考え方は理解できるが、河川の整備や環境の保全、地域との連携などを定めた河川整備方針に基づいて管理する技術者はそういった点も配慮すべきであるし、専門家や地域との連携が必要な部分である。今後も県への相談や調整するは必要であると感じている。
- 委員 少なくとも管理者と地域と活動団体の 3 者において、刈り取るべき植物についてであるとか、時期であるとか、一緒に考えていけると良いと思う。
- 委員 報告の中で鴻ノ巣山が出てきたが、どういった活動をされているのか。
- 回答 団体では樋井川流域をフィールドに活動しているが、団体の中に鴻ノ巣山の管理を手伝っているメンバーもいることもあり、鴻ノ巣山で観察会などを実施している。活動を川に限定するのではなく、鴻ノ巣山などの流域の山が元気であれば川の環境もよくなるという視点でのアプローチを進めている。樋井川流域は非常に良いフィールドなので、魅力的な空間であることや日常生活とのつながりなどを発信していければと思う。

【5 室見川再生を語る会】

- 委員 学校の総合学習や公民館事業などを実施されるにあたって予算はどうされているのか。
- 回答 基本的に活動はできるだけお金をかけない形で行っているが、印刷物の作成などどうしても予算がかかるものは補助金を活用し、補助金でまかなえない部分については、学校や公民館、企業などからの謝礼で自主経費を確保している。
- 委員 活動を継続していくにあたり、ずっと補助金を使い続けることはできないと思うが、次のステップはどのように考えているのか。
- 回答 今は地域の企業や診療機関などに活動の冊子をお持ちして活動紹介を行うとともに、冊子の裏面への広告を募る形で経費を集めており、お声掛けした企業等には快く協賛いただいている。こういった協賛を継続して得るためにも、市民に浸透して行きやすいプロジェクトの構築が目標となる。
- 委員 地元の小学校や幼稚園、公民館以外での、市民への広報・啓発の取り組みはあるのか。
- 回答 コロナ前までは、市民向けの室見川再生市民フォーラムや環境フォーラムなどを実施していた。市民への啓発としてはそういったフォーラムだけでなく、多くの団体とさまざまな地域において、小単位で啓発が行われることが有効であると考えている。

- 委員 活動を継続させていくためにも企業からの協賛を得るなどの活動は良いと感じた。授業などで講義や指導にあたる会員などはどういった人がいるのか。
- 回答 教育面でいうと高等学校の元教員や大学の先生が参加しており、マンパワーは充実している。フィールドワークなどの協力面でいうと、地域住民や PTA の役員などと一緒に草刈りを行っている。特に PTA の方等と継続して繋いでいくことは、課題に感じている。
- 委員 団体内の先生方が伝えることも大切だと思うが、例えば地域の住民と一緒に参加してもらい、教え方や話し方を学んでもらって、その人たちがさらに地域の学校や保育園などにひろげていくことができるのではないかな。保護者にも参加してもらえたら、さらに伝えていくことができるのではないかな。
- 回答 団体ではキッズ研究員という事業をやっており、体験学習の後に自分で決めたテーマについて深く研究し、発表し合っている。やはりそういった研究については最終目標の設定や研究の進め方など、指導にも専門知識が必要となる。そういった指導についてはマニュアルを作って配布してきた。最近はフィールドワークについても冊子を作成しており、学校の先生方に実施の前に事前に配布する形で活用している。

【6 ウェットランドフォーラム】

- 委員 会員数が 21 名で日曜、祝日、土曜日などで様々な活動を計画されている。特定の人に負担が偏らない持続可能な活動という点で、どのような役割分担で活動されているのか。
- 回答 実質的にイベントで動いているのは5～6名で、概ねその人数でまわしている。みんな平日は他の仕事に就いているので、土、日などしか動けないのが実情である。イベントの受付時には、参加してくれた高校生やガタレンジャーの子供たちに任せるなどの形をできるだけとっている。
- 委員 高校生はどのくらい参加や協力をされているのか。
- 回答 城東高校の科学部の生徒さんで、大体10人前後参加していただいている。
- 委員 参加いただくきっかけになったのは団体からの声掛けか。
- 回答 5年ほど前になるが干潟で活動しているときに担当の先生とお会いしたことがきっかけで参加いただけるようになった。
- 委員 活動自体は、2016 年頃からになるのか。
- 回答 ウェットランドフォーラムとしての活動はもっと前からになる。2016 年からは一般に観察会に来る子どもたちのように1回来て終わりではなく、年間を通じてできるだけ活動できる子どもたちを募集するガタレンジャーという活動を実施している。子どもたちには、他の人に干潟について伝えられる力を身につけてもらうような活動をしている。
- 委員 個人的にも、ほかの人に伝えていけることが大事だと感じている。団体の会員だけでなく公民館と一緒に事業をされている点など、干潟の大切さを周知しつつ、周囲を巻き込んだ活動を継続していただきたいと思う。
- 回答 活動をしていて感じるのは、地元の住民より外から来た人の方が干潟の貴重さを感じている。その点を痛切に感じるので、なるべく公民館など地域の方に助けてもらうとか、公民館に出むくとか、そういったことを心掛けている。去年のワークショップでは、地域の方が昔はここであんなことやこんな遊びをしていたという話をされて、子どもたちが喜んで聞いているなど、話す方も聞く方も楽しんでいた。
- 委員 事業名にもSDGsがついていることだし、今後はその辺りまで繋がりや拡がりがあると良いと感じた。

<委員による評価>

(以下、情報公開条例第7条第4号により非公開)